



憲法9条の会つくば

コミュニティニュース

2007. 1. 20 No. 12

ゆ 結 い

発行 「憲法9条の会つくば」

〒305-0005 つくば市天久保1-10-12 1-401

電話 090-3811-3753 fax 029-856-2286

<http://peace.arrow.jp/tsukuba/index.html>

## 新しい年が来ました。しっかり大地を踏みしめ

### 運動を広げていきましょう。

先頃の「一周年記念のつどい」にお集まりくださった皆様には、年末のあわただしい中、ほんとうにありがとうございました。ご参加いただけなかった皆様には、本号のレポートから「つどい」の収穫の一端でも感じていただけたらと思います。

さて、誰もが平和な良い年にと願うお正月ですが、今年は一つ大きな不快感に汚されてしまいましたね。

安倍首相は4日午前の年頭の記者会見で、「私の内閣で憲法改正を目指すということを当然、参院選でも訴えていきたい」と述べた。また、憲法改正に必要な国民投票法案について「与野党間で議論が深まることを期待したい」と語り、成立に強い期待感を示した。

一方の民主党もこれまで改憲そのものに意欲を示していて、今度の国会で国民投票法を成立させる合意が二大政党と附属政党の間で着々と進む情勢です。

でも皆さん、これは問題をはっきりさせるためのチャンスではないでしょうか。多くの国民が増税に疑問を感じ、若者は未来への夢を持たず、高齢者は明日の生活に不安を深めている今、政府は新教育基本法で民主主義を抑えて国民に愛国心を植え付け、防衛省を作って軍隊を確立し軍事同盟を推し進めようとし、その路線の集大成として憲法を変えることを最も大切な公約にしているのです。首相の思い描く「美しい国」とはどんな国なのか、近代史や世界情勢に目が開いた人なら容易に透けて見える気がします。国民の困窮をそっちのけにして、首相の夢見る美しい日本とはどんな国なのか、さらにさらに広く多くの人たちと語り合っていこうではありませんか。

### 新成人に平和をアピール！ 一成人の日に一

市の成人式が開かれた7日、会場のカピオ前広場で今年初の9条署名と国民投票法に反対する署名を行いました。会メンバー10人が参加しました。“9条のぼり”と横断幕を掲げ、用意したミニチラシを配って平和の大切さをアピールしました。新成人は友達との交流を楽しみながらも、平和の呼びかけに素直に応じてくれる人もけっこういて、勇気づけられました。署名数は9条が17筆、投票法が4筆と少々さびしい結果でしたが、立ち止まってくれなかった新成人も、あの日に憲法とか平和とか訴えていた人達がいいたことを心の片隅にでも留めてくれたらと願いました。

#### 筑波の研究所・大学9条の会 第3会講演と対話のつどい

##### 「北朝鮮問題と憲法9条の価値を考える」

日時： 1月27日(土) 13:30~16:00

会場： 大穂公民館2階 視聴覚室

- \* 講師：田村武夫さん(茨城大学教授・憲法学)
- 入場無料 連絡先： 029-857-6593 (茅野)

##### 九条の会かさま 1周年のつどい「今こそ憲法を考えよう！」

日時： 1月27日(土) 13:30~17:00

会場： 笠間市公民館大ホール (0296-72-2100)

- \* いわむらかずおさん(「14匹シリーズ」の絵本作家)のお話「自然、家族そして平和」
  - \* 伊藤 真さん(憲法が楽しく分かる・憲法の伝道師)の講演「9条は日本のほこり、世界の宝」
- 参加券： 500円(一般、大学生)、 300円(高校生)、 中学生以下無料  
託児あり(予約1/18まで)： 0296-74-2684(白土)  
連絡先： 0296-74-4701(田口) / つくば伊藤(857-6978)が参加券を預かっています。

# 12月17日 「一周年のつどい」レポート

「憲法9条の会つくば1周年記念のつどい」は、ピース合唱団による憲法9条を讃える歌“私を褒めてください”でオープンしました。第1部では長田代表による会の活動報告と各地の9条の会のリレーアピールの後に、経済同友会終身幹事の品川正治さんが「戦争、人間、そして憲法9条」と題して記念講演しました。品川さんは、中国の前線での戦争体験やその後の俘虜体験から「憲法9条の価値」を語りました。そして「自衛隊のイラク派兵などで9条の旗は、これ以上破りようがないほどボロボロになっているが、旗竿を国民が握って放さない。それを放せと言っているのが今」だけれど「私は楽観している」と語り、「国民投票で、国民がノーと言ったら今の政権が吹っ飛ばし、米国や中国との関係も変わる」と「国民の力」を強調しました。

第2部では、品川さんと元人間魚雷「回天」搭乗訓練生の中村恵一さんに5人の高校生、大学生、社会人の若者を交えて、“いま、私たちはどんな時代を生きていますか”のテーマで語り合いました。若者たちは「争いを避けるには対話が必要」、「今、私はとっても幸せ、だから大事にしたい」、「NGOの活動をしている。平和だから街作りや環境問題にも取り込まれる」、「ネット右翼との討論にはまっている」などの思いとともに、「日本が何もしなくても攻められることはないのか」、「9条2項が、なぜ歯止めになるのか」など率直な質問をしました。品川さんと中村さんは、戦争の悲惨さと平和、そして「9条」のもつ力を語りました。なかでも品川さんの「9条2項は“日本には敵国はないよ”という宣言です」という言葉が印象的でした。合間のヒューマンファーマーズによる平和の歌声で、つどい参加者が心を一つに唱和しながら「戦争を起こすのも、止める努力をするのも人間」という品川さんの言葉をかみしめ、憲法9条の力を確信し「9条を守れ」の声を大きく掲げていく決意をみんなで確かめました。

参加者は約240人で目標に届きませんでした。1周年記念の企画にふさわしい味わいのある内容になりました。でも品川さんの講演をもっと多くの、特に若い人に聞いて欲しかったと思います。最後に「つどい」の準備、そして当日の裏方と、「つどい」成功のために奮闘してくださいました皆様方に心より感謝します（伊藤清子）。

## パネルトークに参加した若者から感想や思いが届きました。

時々、ニュースなどで憲法9条をめぐる問題を耳にしていますが、たいして気にかけていませんでした。しかし憲法9条の会つくばのつどい、パネルトークに参加し、それはとても重要な問題であることが分かりました。品川さん、中村さんのお話やパネルトークでのみなさんの意見、合唱や平和の歌などから、今の日本の現状、その中で私たちはどう生きるのか、そして平和のかけがえのなさを学ぶことができました。平和を守るためにも、日本が再び同じ悲劇を繰り返すようなことは絶対にあってはならないと強く実感しました。

<A. I. (高校生)>

私たちが9条を守るためには、9条の改正を推し進めている人たちとの対立ではなく、対話が重要だと考えます。9条は何者にもかえがたいものですが、それを持っている日本は食料自給率の面などから分かるように「他国に大きく依存している国」（尤も依存していない国などないと思いますが）です。その日本が依存している国のひとつがアメリカです。そう考えるとアメリカとの関係も無視できません。私たちは、相手の意見も自分たちの主張も、もっとよく理解するべきであり、9条の問題はこのような対話によって解決されるべき問題だと思います。

<ASO (高校生)>

戦争を現代の私たちの生活からとてもかけ離れたもののように感じていましたが、実は原子力発電により生み出される使用済み核燃料が劣化ウラン弾としてイラク戦争で使われていること、経済大国日本の裏では、アジアをはじめとして労働搾取や環境破壊といった「侵略」が今なお続いていること、それらが私たちの享受している「豊かさ」の根源にあるということを知り、戦争を身近に感じるようになりました。よく「声を上げよう」と言いますが、「声」を持っているが、どう声を上げればいいのか分からないという現代人がたくさんいます。署名や投票では声を上げている気がしないという若者もいるでしょう。しかし声を上げる方法はたくさんあります。実は私たちの暮らしの中に戦争の種がたくさんあるのです。そのことにもっと関心を持って欲しいと思います。

<M. T. (大学生)>

品川正治さんの戦争体験のお話を聞いて本当によかったです。品川さんのお話には、今まで聞いてきた反戦を訴える話よりも格段に強いメッセージ性と説得力が感じられたからです。世の中には戦争の悲惨さを訴えるメディアは数多くありますが、近年少しずつ戦争を容認するムードが高まっています。その背景には、感情に訴えて反戦を主張するケースが多く、いまいち明確に反戦を訴える理由や哲学を伝えきれていないことがあると思います。品川さんのお話の中の「戦争始めるのも止めるのも人間であり、戦争をするしないは人間の生き方である。私は二度と戦争をするという生き方に同意することはない」という言葉は、単に反戦を主張するだけでなく、戦争を体験していない世代の僕たちの心の奥底までとどく、はっきりとした素晴らしいものでした。

<Goya (大学生)>

私はサヨクの方々が正論を言っていて、ウヨクの方々がそれに対する疑問をぶつけているという風に解釈しています。「日本は過去の侵略戦争を反省すべきである」。この命題に対して、ウヨクの方々が「いちゃもん?」をつけています。サヨクの立場をとる方々はこの命題に対して、きちんとした「説明責任」を果たす必要があると思います。私はこの命題に賛同していく立場をとるが、まだウヨクの「疑問」に対して1から10まできちんと説明しきれていない。これが私のこれからの課題。完膚なきまできちんと説明して、ウヨクに納得してもらえれば「9条の値打ち」をわかってもらえるのではないかしらと思うし、「9条の値打ち」が弾いてくるのだと思います。これは「平和をめざす」日本にとっての課題でもあると思います。  
＜M. M. (社会人)＞

## 一周年のつどい アンケートから

たくさんのアンケート回答ありがとう。全部載せられなくてすみません。

### 記念講演 (品川正治さん)

- ◆「正義の戦争でもしちやいけないと国が憲法に書き込んだ。これで亡くなった戦友に顔向けができる〜。」胸をうたれました。「正義でもダメ。この歳になっても訴えたい」もグッときました。(50代女)
- ◆終戦について「二度と戦争をしない終戦」の言葉の重さを感じました。戦争体験者にとっての憲法9条の重みを感じました。国民主権において戦争を起こすことは我々国民の責任。(30代男)
- ◆二度と戦争をしない日本になるという思い、9条2項を見て泣いたと言う話し、戦争を体験した人の心情だと重く受け止めました。韓国、中国の人の中の深い思いが考えられる教育が必要だと思いました。(60代男)

### パネルトークの感想 (青年たちと)

- ◆面白かったですね。私の考えていることを若人たちが代弁してくれました。(30代男)
- ◆高校生、大学生の若い人をパネラーにするという企画が面白く、これを見る(聴く)ために参加しました。(不明)
- ◆人選にかたより? パネルトークできるほど意識の高い若者は少ないのかも。(50代男)
- ◆若者の新鮮な話が良かった。特に高校生の、今私たち平和だねって言い合うところ。ヘー若い子の世界ってこうか! ってかんじ。(50代女)
- ◆国連軍に派遣しない条件での常任理事国入りをも選択肢として作ってもいいのではないかと。(30代男)

### 交流会・会場・つどい運営など

- ◆歌があったのは良かったです。特に最後はみんなで9条を守ろうとしているんだという実感が持てました。(10代女)
- ◆せっかく9条Tシャツがあるのだから、スタッフは着てほしかった。(決意のほどを示すため) 教基法改悪・防衛省昇格が象徴するように追い込まれているのは政府です。国民の真の勝利を目差してがんばりましょう。(30代男)
- ◆会場近辺に警察や機動隊など、たくさんいて、怖いな・・・と感じた。会場に入るのに勇気がいる。あたり前の話しを聞くだけなのに・・・。(50代女)

### 「憲法9条の会つくば」へのご意見、 「憲法9条」を守るためのアイディア等

- ◆9条イベントをして世論を引き起こそう!! 1日つくばセンターなどの石の広場をかりきって9条の「9」字を10円玉(100円、500円何でもワンコイン)で大きなレリーフを作る。(図解付き 40代女)
- ◆会場の外には機動隊が配備されていました。今後も機動隊との接触は増えると考えられます。彼らに少しでも9条の会の主旨を伝えられる方法がとれればと思います。右翼も同様で意見交流を模索できればいい。

## ロビーでの販売活動と交流活動の反省

「つどい」会場の市民ホールとよさと、ロビーでは多様な9条グッズの紹介と販売、9条をテーマに遊ぼうという企画をたてていました。グッズの方は9条パン、クッキー、Tシャツ、9条絵葉書、カード、9条ビーズ、9条カンバッチ、9条スプーン、平和アクセサリーなど、他団体の協力も得て多様な商品が並びました。特に人気があったのは9条パンとクッキーでした。しかし「9条を遊ぼう」の企画、9条ツリーのオーナメント作りの方は時間的余裕がなく、参加者が少なかつたのは残念でした。でも元々、舞台とロビーの同時進行という企画のため、ロビーにはハンディがありましたので、まあよくやったというところでは、もっと別の機会・・・他団体のハザーやお祭りなどに、9条の会として出店するといいいのでは、と感じました。ロビーの企画にご協力下さった皆様、ありがとうございました。(穂積)

## 他地域・分野9条の会との交流

「つどい」には 荊崎9条の会、憲法9条土浦の会、憲法9条牛久の会、取手9条の会、下館・9条を守る会、石岡地域憲法九条の会、九条の会かさま、憲法9条—世界へ未来へ 県南9条連と、筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会の9団体から代表が参加してくださり、つどいの開会前に代表の交流会をもちました。思うように賛同者が拡がらない悩みをもつ会が多く、今後、交流の場を定期化して情報交換を行い、連帯を強めていくことで合意しました。(樋田)

私達の少年時代には、祝日には学校で講堂正面の壇上の天皇・皇后の写真(御真影と言った)に最敬礼して君が代斉唱し、校長が教育勅語を読みあげるなど、天皇を現人神として敬う気持ちをカラダで覚えさせられました。当時の私は、天皇のために戦争で命を捧げることは大変名誉なことと信じていた軍国少年であり、それが1番の親孝行であると思っていたのです。

私は、1941年12月8日のハワイの真珠湾攻撃で、特殊潜航艇5艇に乗り戦死した9人の特別攻撃隊に大変感動し、16才で海軍甲種飛行予科練習生に志願、僅か10ヶ月(本来は1年6ヶ月)で卒業、17才で特攻隊を志望して人間魚雷・回天の搭乗員として約10ヶ月間の訓練を受けていて、18才で敗戦を迎えました。敗戦で、母親のもとに生きて帰れることになった時の嬉しさは、言葉では言い尽くせない程大きいものでした。特攻隊は、国体護持(天皇制国家を守る)のために死ぬことを考えていたわけで、両親、特に母親がどんな気持ちで子供を軍隊・戦争に送り出したのかということは、考えてみたことがなかったのです。敗戦になってはじめて気がついたわけです。

私の生家(長野県)では、太平洋戦争で長男(陸軍24才)と次男(甲飛11期23才)が戦死、3男(海兵団)と4男の私(甲飛13期)は無事生還しました。戦時中は4人も出征させたということで、軍国の家として信濃毎日新聞などで称賛されたようです。兄達の告別式が戦時から戦後にかけて行われました。戦後数年間、母親は薄暗い奥座敷でアルバムを開いて、兄達の写真の上に、糸の先に小

さなボタンをつけて下げるのです。そのボタンがクルクル回ると、母親はボタンが回るから勝男(長男)と隼人(次男)はどこかで生きているかもしれないと、私に語りかけてきたのでした。このように、大義なき15年戦争で大事な息子達を失った母親の悲哀は、はかり知ることができない程に深く重いものでした。

私は太平洋戦争の体験者・特攻隊員として、平和憲法を守っていく上で大切だと思っていることが2つあります。第1は、15年戦争が世界の平和を乱した侵略戦争であったことを、日本国民として自覚しきちんと反省することです。自民党を代表する日本の政府は官僚を含めて、侵略戦争をきちんと反省しないまま戦犯的体質を継承しています。その現れが自衛隊であり防衛省です。そのため新聞やテレビなどのマスコミが平和憲法の大切さを真正面からとりあげることができなかったと思うのです。第2は、日米安保条約などで日本政府がアメリカの言いなりになってきた誤りを正すことです。アメリカは広島・長崎に原爆を投下した国です。アメリカは戦後60年間、日本国中に軍隊を置き、ベトナムやイラクなどで大義なき侵略戦争を続けている極めて危険な存在です。我が日本国は、世界中のすべての国と友好的な関係をつくりあげ、地球上から戦争をなくすよう働きかけることが大切であり、このことが平和憲法をもっている日本の1番大事な役割だと思えます。

## 梅園地区 署名集め活動

12月末は見送った梅園地区の全戸総当り署名第3回、1月28日(日)14:00から行う予定です。集合はいつもどおり梅園集会所に13:30の予定です。参加して下さる方は直接集合場所において下さい。(穂積)

## 筑波地域 憲法学習と戦争体験を聴く会

日時： 2月24日(土) 13:30~16:30  
会場： 筑波公民館学習室 (つくば市筑波庁舎の隣)

\* やさしい憲法9条のはなし 講師：緒方章宏先生(日本体育大、憲法学)

\* シベリア抑留体験談 + 予科練体験談 筑波地区在住者

参加費： 資料代として若干の募金

主催： 筑波地域憲法9条の会準備会

連絡先：029-867-4011 (菊池)

## 編集後記

今、巷で「ツキを呼ぶ魔法の言葉」というのが流行っているのをご存知ですか？

「ありがとう」「感謝します」「ツイてる」「この3つの言葉を唱えるだけで、自分の人生がガラリと変わるといふものです。

これには「ツキがあつて、嫌なことがあつたら「ありがとう」といい、いいことがあつたら「感謝します」と言います。そして、普段から前向きに「ツイてる」を口癖にするということなんです。また、「感謝します」は、こうなりたいと思うことを口に、それが実現したと仮定して言ってもいいそうです。例えば、受験前に「合格しました、感謝します」というように。

これは、工学博士の五日市剛さんという方が、イスラエルに旅をして出合ったおばあさんから教わったことで、それを実践したら人生が全体的にいい方向に変わったという実体験を周りの語り、それを書きまとめた本が、書店に売っていないにも拘らず、口コミで60万部も売れたのだそうです。

憲法9条を守り、育てていく運動は、長くて気の滅入ることが多いと思いますが、皆さんで「9条が守られました、感謝します」「平和な世の中が訪れました、感謝します。」と唱えながら、楽しく運動を進めていけたらなあと思います。新年に。(堀部)

